

令和5年度宇部市プレミアム付商品券 アンケート調査結果分析報告書

令和6年2月29日

受託事業者：宇部商工会議所

【目 次】

I. 市民向けアンケート調査

- 1. 実施概要 3
- 2. アンケート調査分析結果 4～12
- 3. 市民向けアンケートのまとめ 13

II. 参加店舗向けアンケート調査

- 1. 実施概要 14
- 2. アンケート調査分析結果 15～20
- 3. 参加店舗向けアンケートのまとめ 21

III. 経済波及効果分析結果

- 1. 消費総額・消費喚起額の整理 22～24
- 2. 市内需要増加額の算出 25
- 3. 経済波及効果の試算結果 26～27
- 4. 総評 27
- <別添>経済波及効果(総合効果)の部門別内訳 28

IV. 資料

- 1. 市民向けアンケート調査票 29～30
- 2. 参加事業者向けアンケート調査票 31～323

I. 市民向けアンケート調査実施概要

(1) 調査の目的

商品券購入・利用者の意見を分析し、今後の商品券発行事業の改善・発展に役立てるため

(2) 調査対象

商品券を購入された各世帯

(注) 商品券を購入された世帯の代表者に本アンケートは回答してもらっています。

(3) 調査方法

調査票は郵送、返信用封筒及びWEBによる回答

(4) 調査期間

令和5年9月22日(金)～令和5年12月22日(金)※当日消印有効

(5) 配布・回収

・郵送数 27,989件

・回答数 15,329件

返信用封筒での回答数 13,236件(86.3%)

WEBでの回答数 2,093件(13.7%)

・回答率 54.8%

(6) その他

アンケートに回答していただいた市民の中から抽選で100名に「フジグラン宇部」又は「イズミゆめタウン宇部」で使用できる商品券5,000円相当をプレゼントしました。

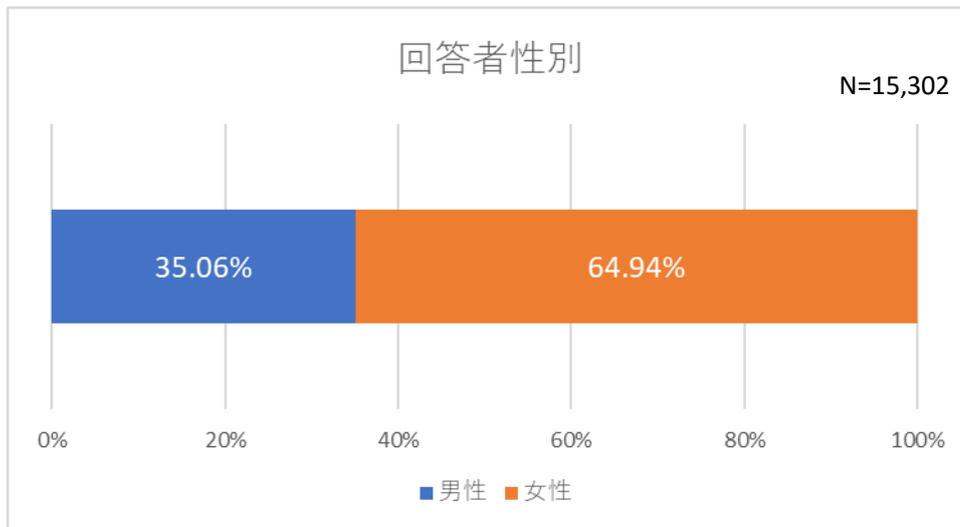
市民向けアンケート調査分析結果

問1. 回答者性別

【性別】

本アンケートは女性が全体の約65%、男性が約35%回答しています。

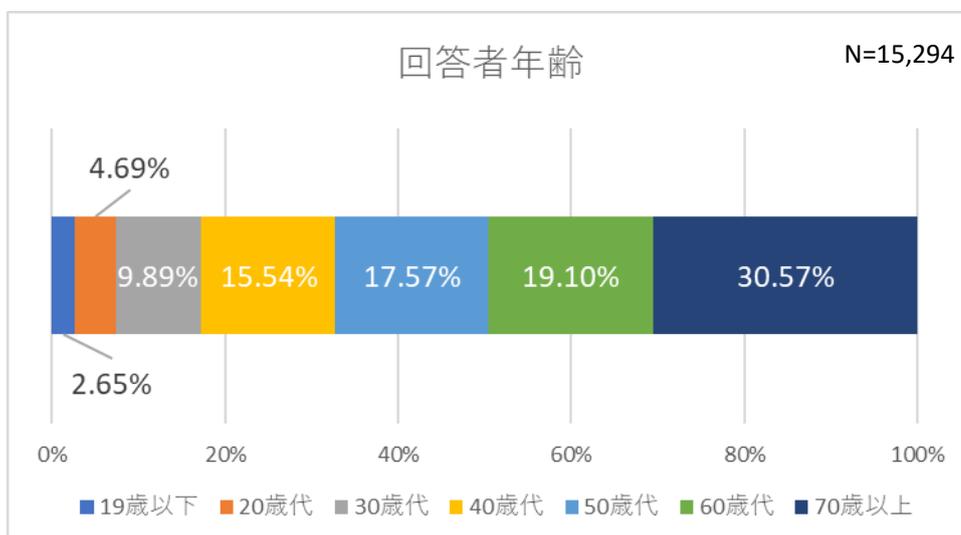
(注) 本アンケートは宇部市プレミアム付商品券購入者を世帯別に集約し、世帯を代表して1名の方に回答してもらっています。



問2. 回答者年齢

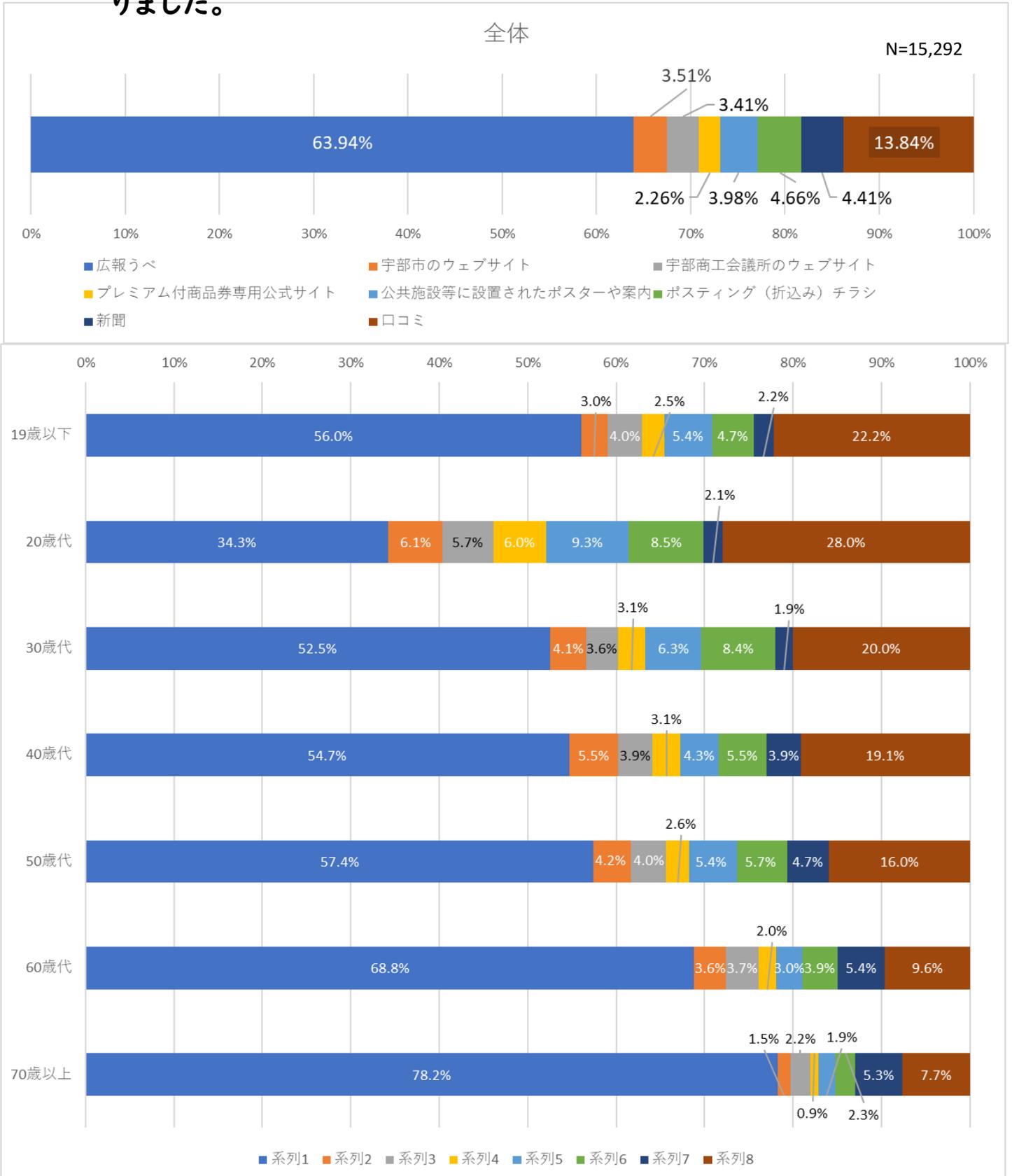
【年齢】

本アンケートは60歳代以上の方が約50%を占め、シニアの方の回答割合が高いことが特徴です。逆に、若年層の回答率は20歳代が約5%、30歳代が約10%となっています。



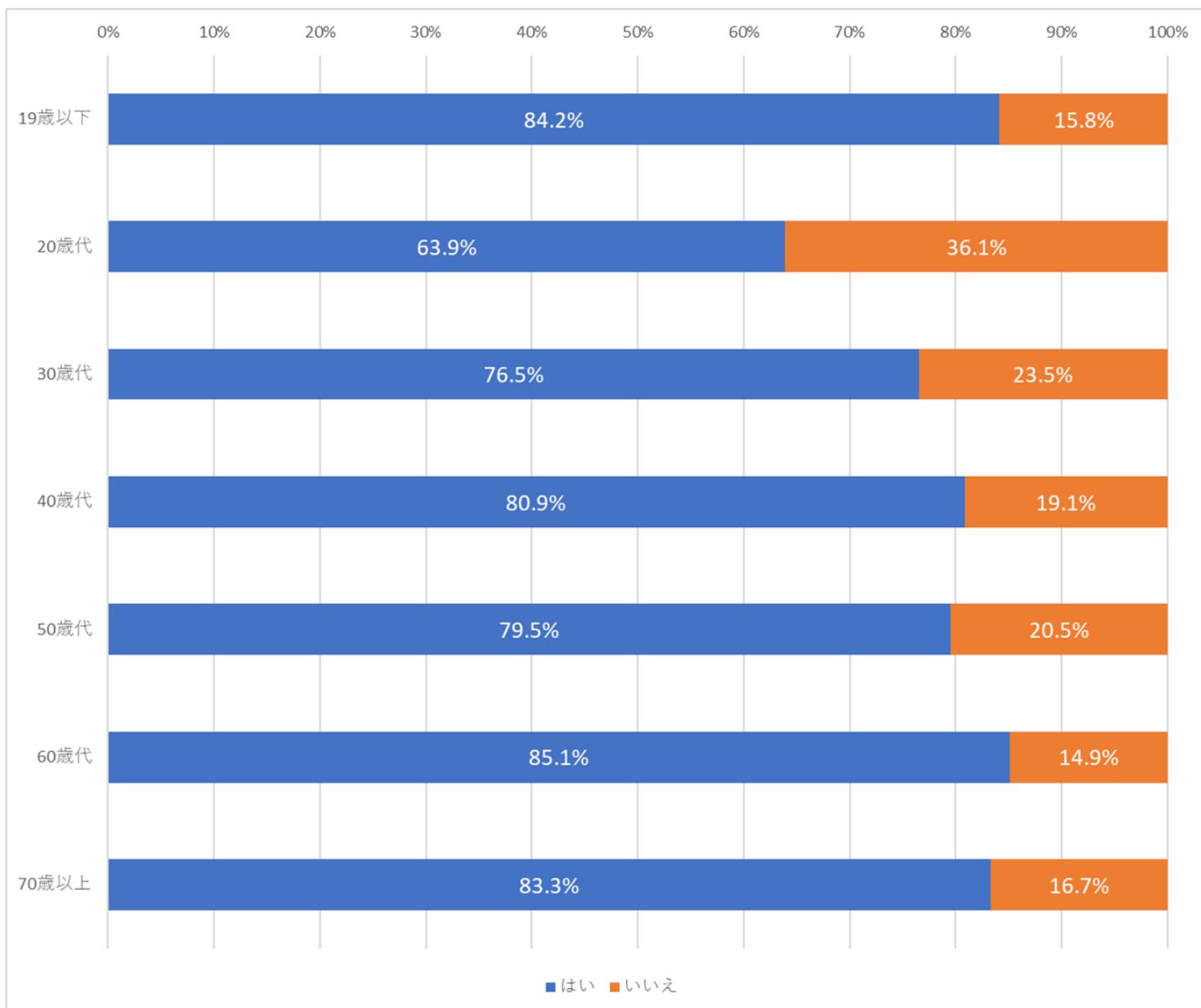
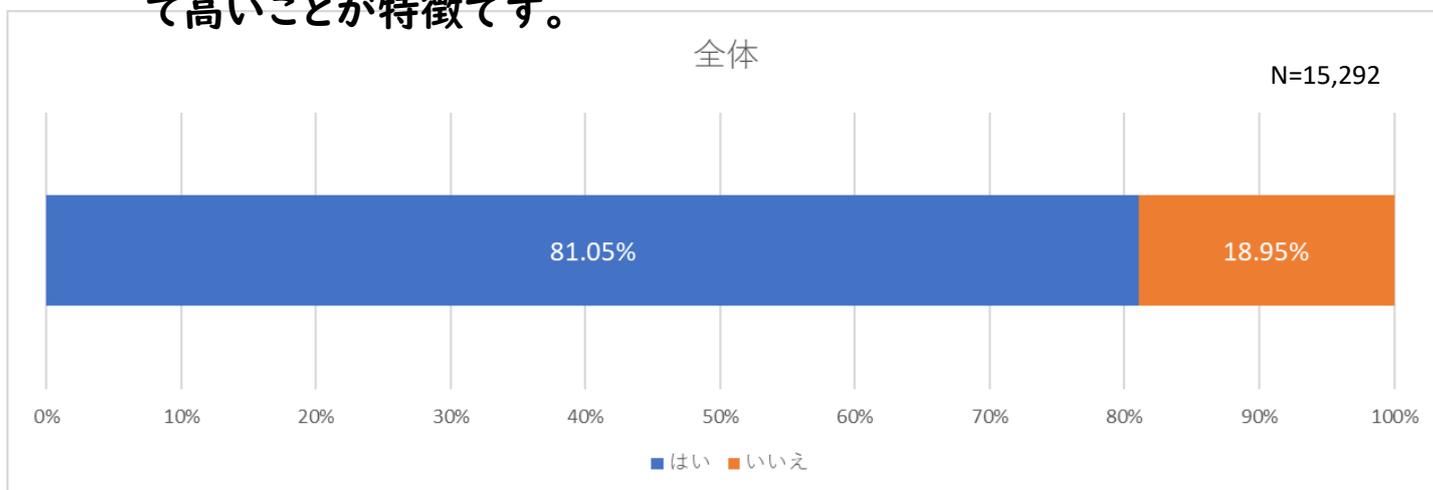
**問3 宇部市プレミアム付商品券の事業を知ったきっかけは何ですか。
(1つだけ選択)**

本事業を知ったきっかけで最も多いのは「広報うべ」の約64%で、次に「ロコミ」の約14%の順となっています。令和4年度の商品券事業でも「広報うべ」の認知度が最も高く、商品券事業を市民の方に認知していただくためには「広報うべ」の存在が欠かせないことがわかりました。



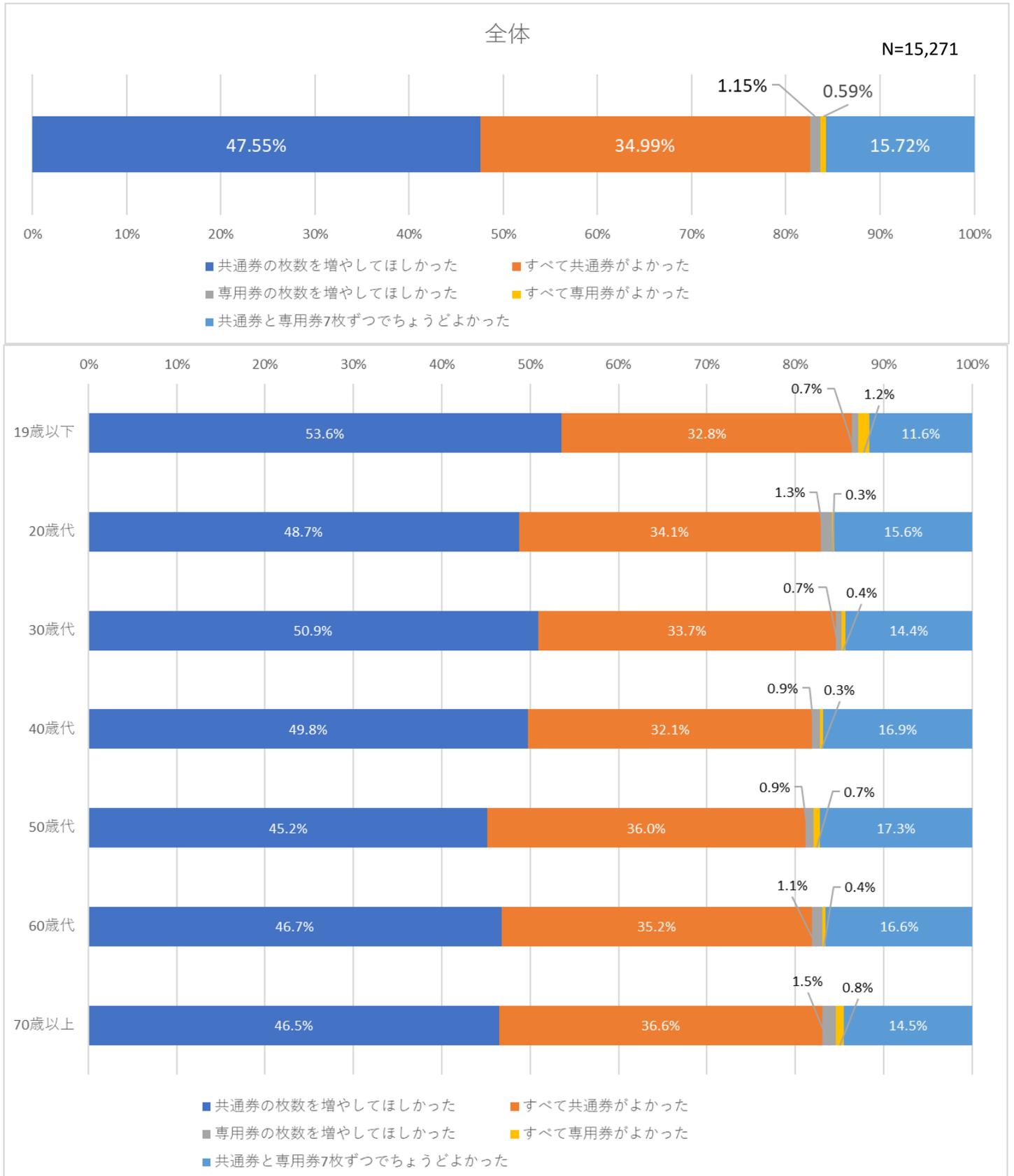
問4 昨年（令和4年）度に販売した宇部市プレミアム付商品券は購入されましたか。

本アンケートに回答した約81%の方が昨年（令和4年）度に販売した宇部市プレミアム付商品券を購入されており、リピート率が極めて高いことが特徴です。



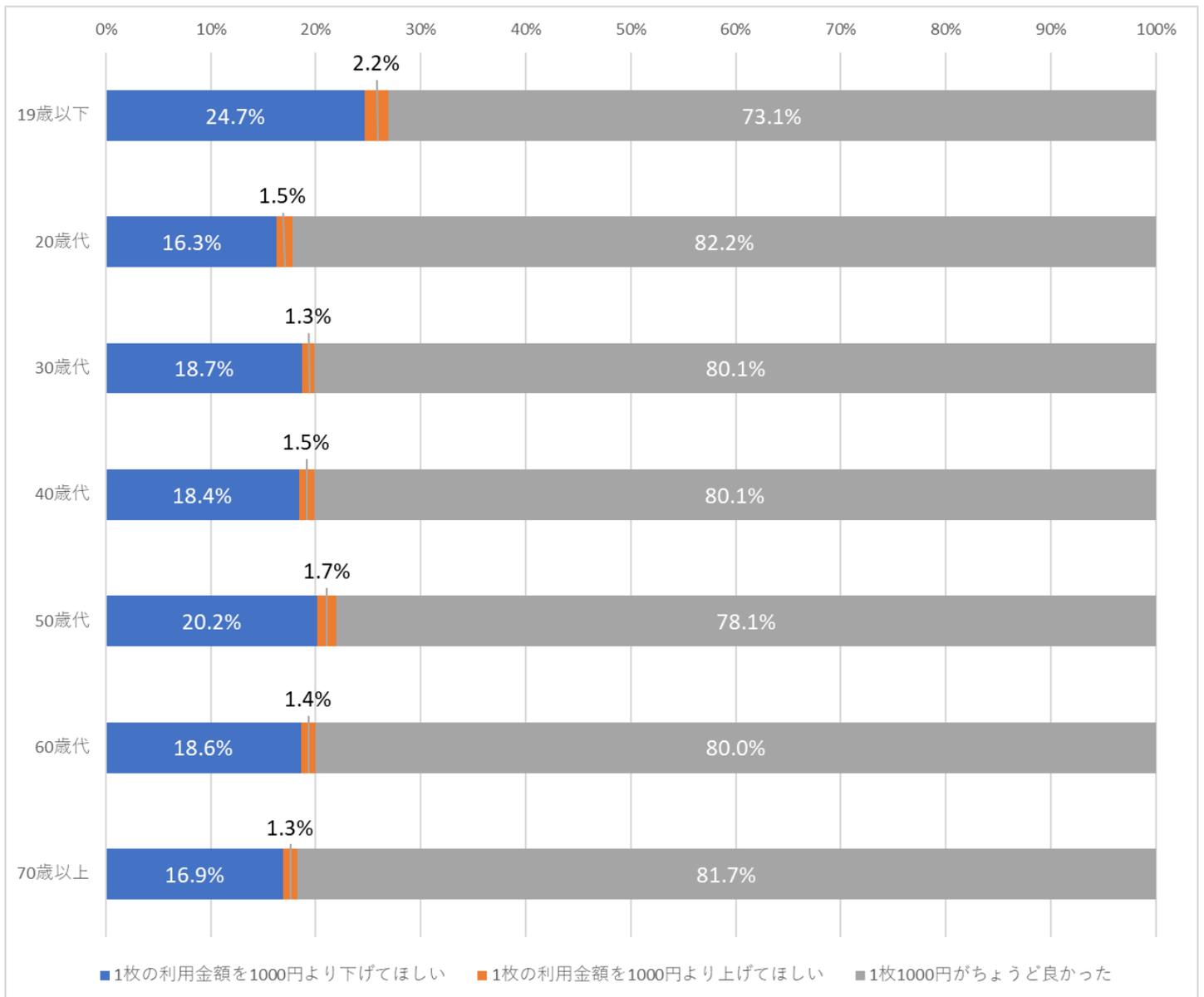
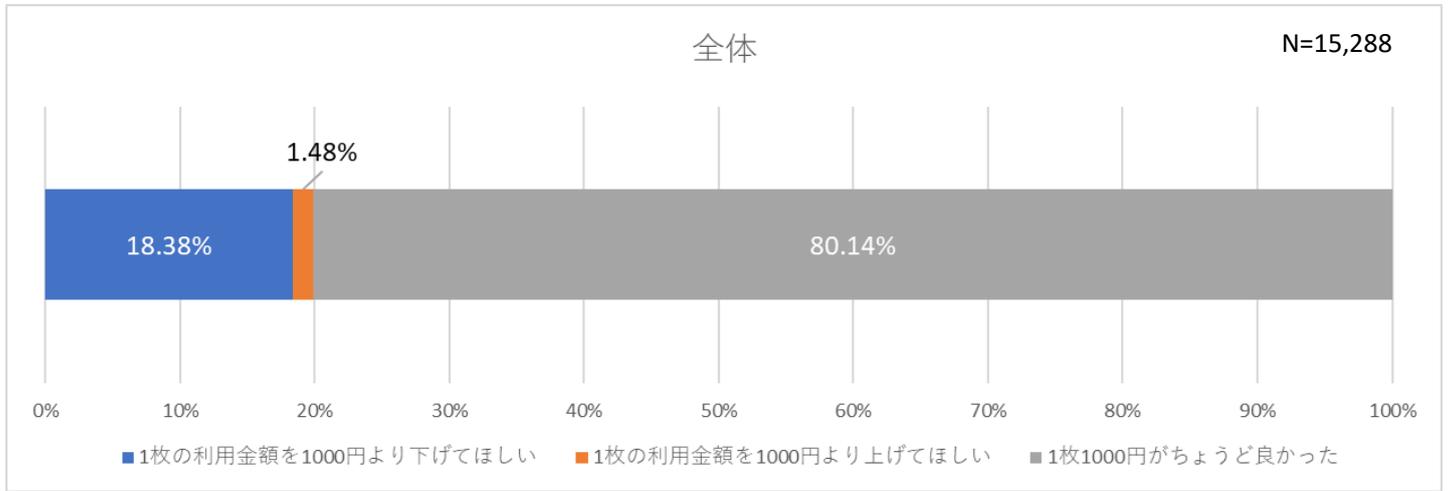
問5 | セットのうち、共通券と専用券の割合について教えてください。

「共通券の枚数を増やしてほしい」と回答した方が約48%で最も多く、「すべて共通券がよかった」と回答した方と合わせると8割超の方が共通券の割合を増やしてほしいと考えています。



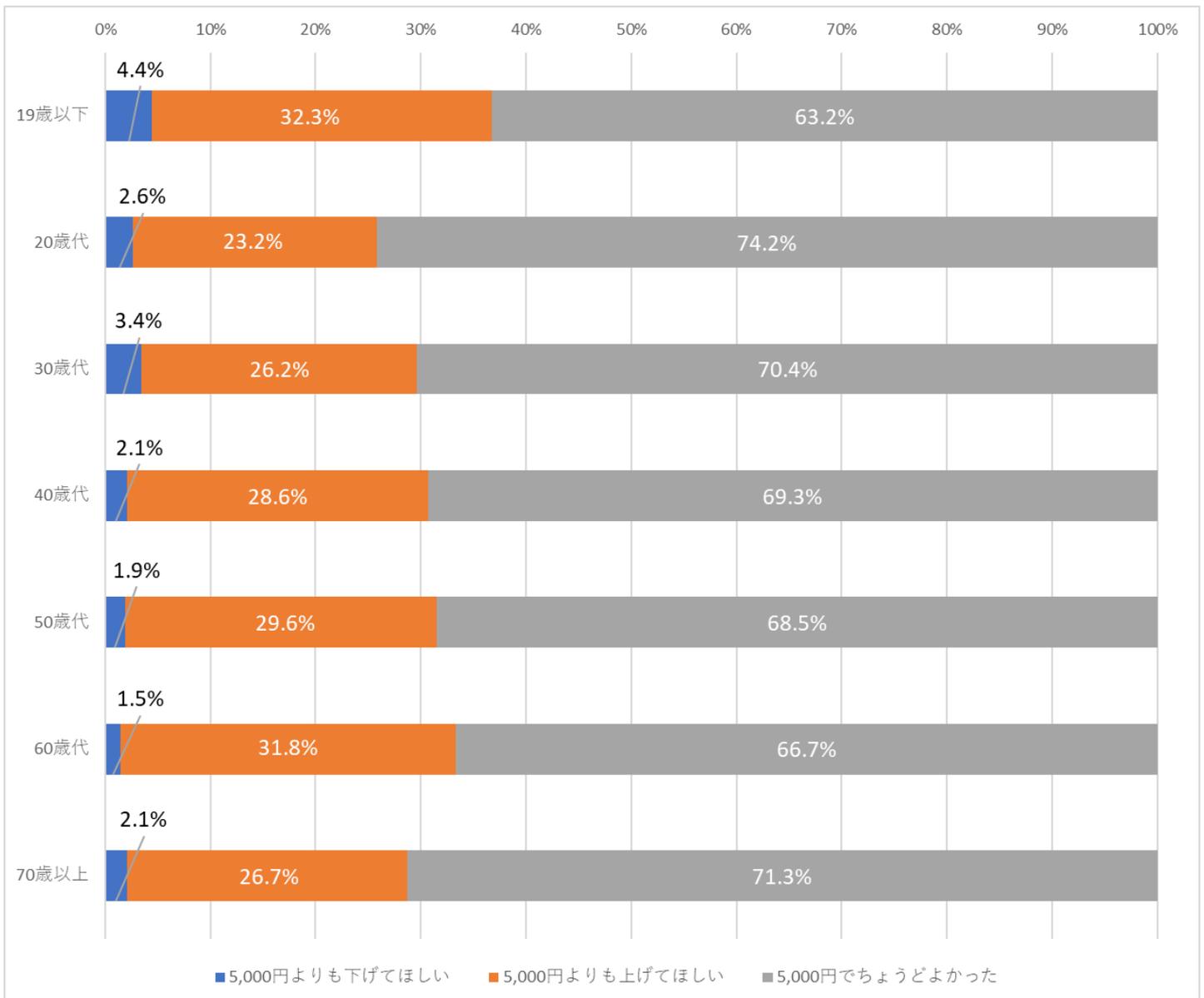
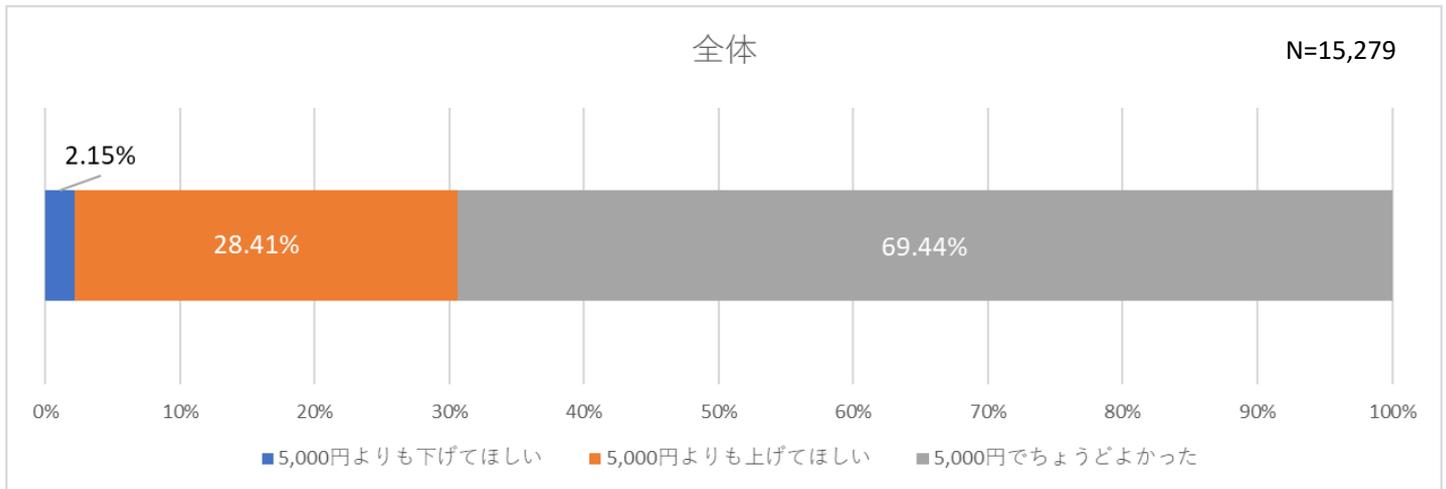
問6 商品券1枚1,000円の利用金額設定について教えてください。

商品券の利用金額設定では、「1枚1,000円がちょうど良かった」と回答の方が8割を占め、大多数でした。



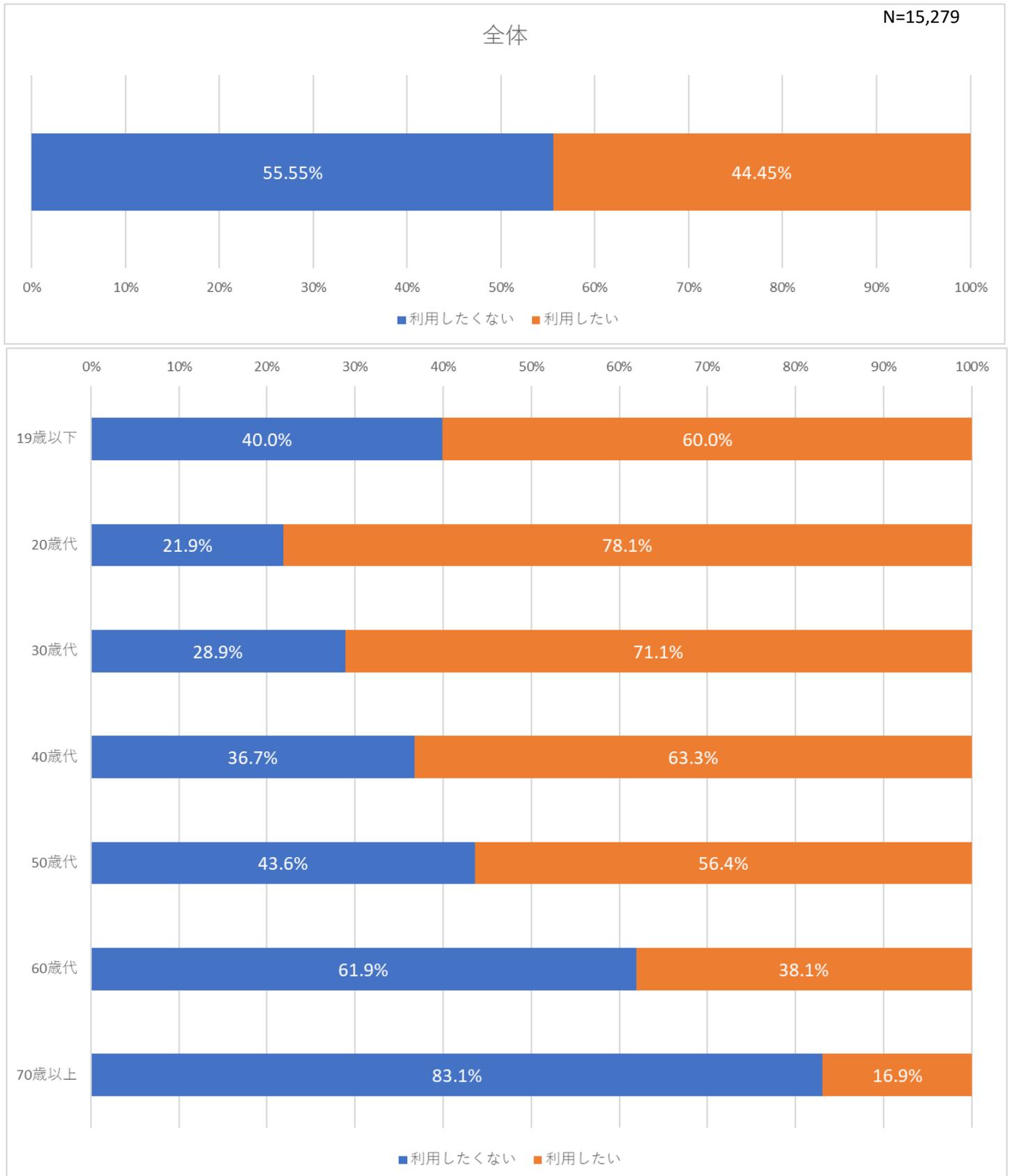
問7 商品券1セットあたりの金額について教えてください。

商品券の利用金額設定では、「1セット5,000円がちょうど良かった」と回答した方が約7割を占め、大多数でした。



問8-1 宇部市プレミアム付商品券が電子支払い(専用のスマホアプリ)も可能となった場合、利用したいと思いますか。

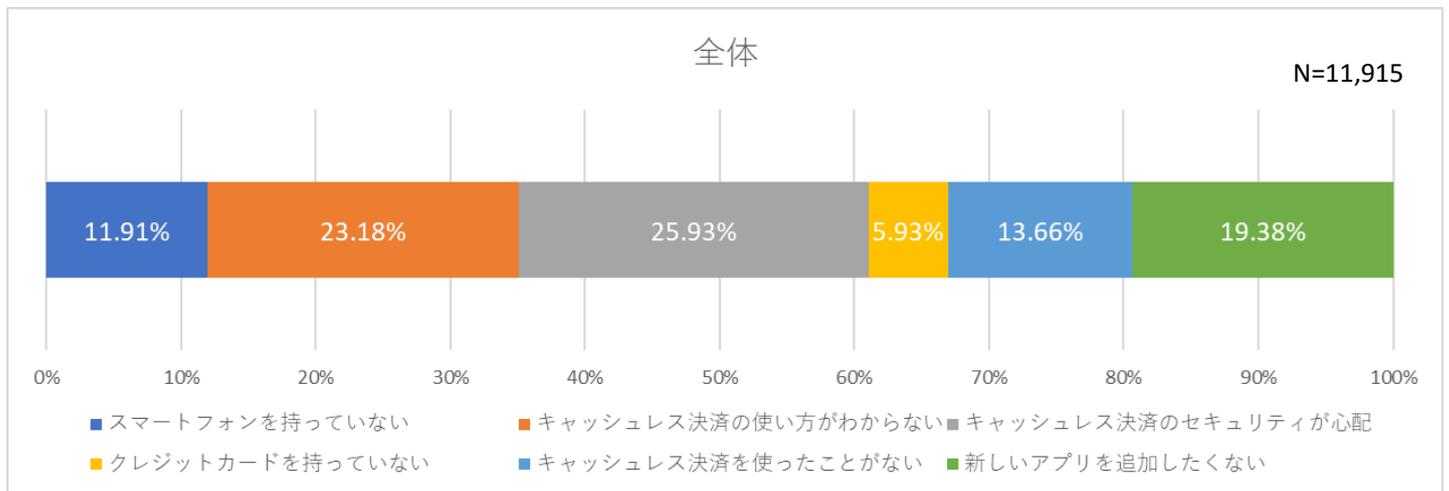
宇部市プレミアム付商品券が電子支払い(専用のスマホアプリ)も可能となった場合、全体では「利用したくない」と回答した割合が約56%で、「利用したい」と回答した割合を若干上回りましたが、世代別にみると、50歳代以下では「利用したい」と回答する割合が多くなっています。



問8-2 問8-1で「利用したくない」と回答された方にお聞きします。
主な理由を最大3つ選択してください。(複数回答可)

宇部市プレミアム付商品券の使用が電子払い(専用のスマホアプリ)も可能となった場合、「利用したくない」理由として最も回答が多かったのは「キャッシュレス決済のセキュリティが心配」の25.93%で、次に「キャッシュレス決済の使い方がわからない」の23.18%、「新しいアプリを追加したくない」の19.38%となっています。

本アンケート回答者の約半数が60歳代以上であることから、依然としてシニア世代において商品券事業のキャッシュレス化に抵抗があることがわかりました。



<自由意見>

自由意見欄に記載していただいた内容をキーワード別に集約した結果は次のとおりです。有効回答者数9,291件。

- 「よかった」「ありがたい」などポジティブな評価……………3,294件(35.4%)
- 「来年もやってほしい」「定期的にやってほしい」
 - 「毎年」やってほしいなどの意見…2,131件(22.9%)
- 「共通券を増やしてほしい」「共通券のみにしてほしい」などの意見…368件(3.9%)
- 「希望セットあたらなかった」「購入限度額増加を希望」の
当選セット数に関する意見…357件(3.8%)
- 「キャッシュレス決済」「電子化してほしい」などの意見……………212件(2.2%)
- 「アンケートが分かりにくい」「項目が多い」などの意見……………165件(1.7%)
- 「券の使用期間をもっと長くしてほしい」などの意見……………127件(1.3%)
- 「商品券により普段は買わないものを買った」
 - 「普段は行かない所に行った」といった意見…123件(1.3%)
- 「抽選方法」や「当選セットに関して」不公平感がある……………24件(0.2%)
- 「他市のように市民一律に配布してほしい」
 - 「全市民にいきわたるように」といった意見……………15件(0.1%)

<自由意見の総括>

物価高騰の影響を受け、この度のプレミアム付き商品券は「ありがたい」「助かった」といった意見や「来年もやってほしい」「定期的にやってほしい」など商品券事業に対するポジティブな意見が非常に多く見受けられました。

一方、「専用券の割合を増やした」ことに対する不満や「すべて共通券にしてほしい、または共通券の割合を増やしてほしい」、「希望したセット数あたらなかった、最初から最大3セットでも良かったのではないか」という意見も一定割合おられました。

また、商品券のタイプについては「電子商品券を望む声(商品券1,000円分は一度に使いきれないので1円単位まで使えるなど)」と「紙の商品券を望む声(紙だと家族で分けられるなど)」が拮抗していました。

【市民向けアンケートのまとめ】

初めに市民向けアンケートについては、商品券購入世帯単位に調査票を送付させていただきましたが、昨年度商品券事業の回答率49.9%を上回る非常に多くの市民の方にご回答をいただきました。心から感謝いたします。(本年度事業の回答率54.8%)

回答者の多くが昨年度同様、女性で60歳以上のシニアの方でしたが、今後、宇部市がプレミアム付商品券事業を行う上で貴重なデータを得ることができました。アンケート調査の末尾にある自由意見欄をキーワード別に集計すると58.3%の方が「良かった」又は「定期的に実施してほしい」と回答しており、本事業が商品券購入者にとって高評価であったことがわかります。

高評価の要因として次の3点が考えられます。

- ①商品券1セット(7枚)のうち共通券(3枚)よりも専用券(4枚)の枚数が多かったにも拘わらず、本事業に昨年度を上回るお店に登録していただいたことにより、市民の皆様にとって実用的で魅力ある事業であることを訴求できたこと。
- ②シニア世代の商品券購入者に配慮し、商品券をデジタルではなく紙のみで発行したこと。
- ③換券場所として郵便局だけでなく、昨年度に引き続き土日に換券できる市内大型店の協力を得ることができ、商品券購入者にとって換券時の利便性が高かったこと。

一方、宇部市でプレミアム付商品券を購入される市民の方には次の6点の傾向があることがわかりました。

- ①商品券事業を認知する広報ツールとして「広報うべ」が多数であること。(約63%)
- ②プレミアム付商品券購入者のリピート率が非常に高いこと。(約81%)
- ③商品券1セットのうち共通券の割合を増やしてほしいと考える市民が大多数であること。
(「共通券の枚数を増やしてほしい(47%)」と「すべて共通券がよかった(34%)」を合算すると81%)
- ④商品券の利用金額設定では「1セット5,000円がちょうど良かった」と思っていること。(69%)
- ⑤商品券が電子(専用のスマホアプリ)も可能となった場合、50歳代以下では「利用したい」と回答する割合が多く、逆に60歳代以上では「利用したくない」と回答する割合が非常に高かったこと。
- ⑥商品券の利用が現金でしか決済できない市民が相当数おられること。(例えば「スマートフォンを持っていない(12%)」、「クレジットカードを持っていない(6%)」など)

今後、商品券・クーポン事業をキャッシュレスやデジタルで行う際は、「現金でしか決済できない市民」に対して懇切丁寧な対応や配慮を心がけておかなければならないと強く感じました。

最後に、アンケート調査を行った際、自由意見欄に9,291名の市民の方から貴重なご意見をいただいたことを考えると、昨年度に引き続き本事業に関する市民の関心が非常に高かったことが推測できます。

Ⅱ. 参加店舗向けアンケート調査実施概要

(1) 調査の目的

商品券参加事業者の意見を分析し、今後の商品券発行事業の改善・発展に役立てるため

(2) 調査対象

本事業に参加申込のあった店舗

(3) 調査方法

調査票は郵送、回答方法は①郵送、②FAX、③Webの3種類

(4) 調査期間

令和5年11月1日(水)～令和6年1月15日(月)

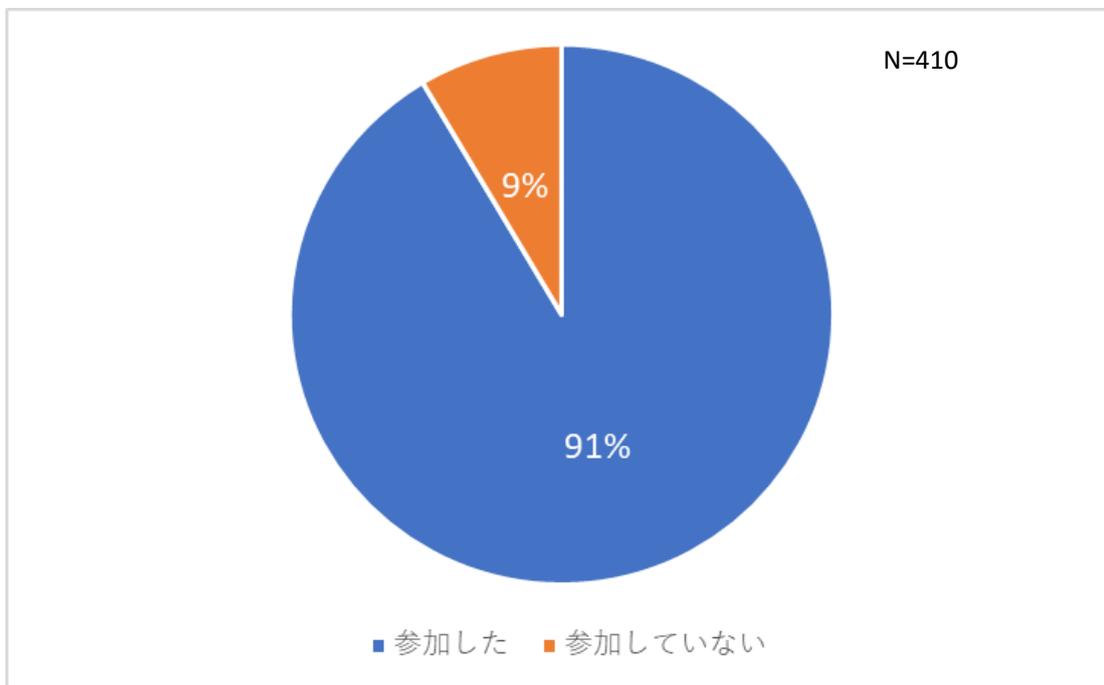
(5) 配布・回収

- ・郵送数 1,029店
- ・回答数 410店
- ・回答率 39.8%

参加店舗向けアンケート分析結果

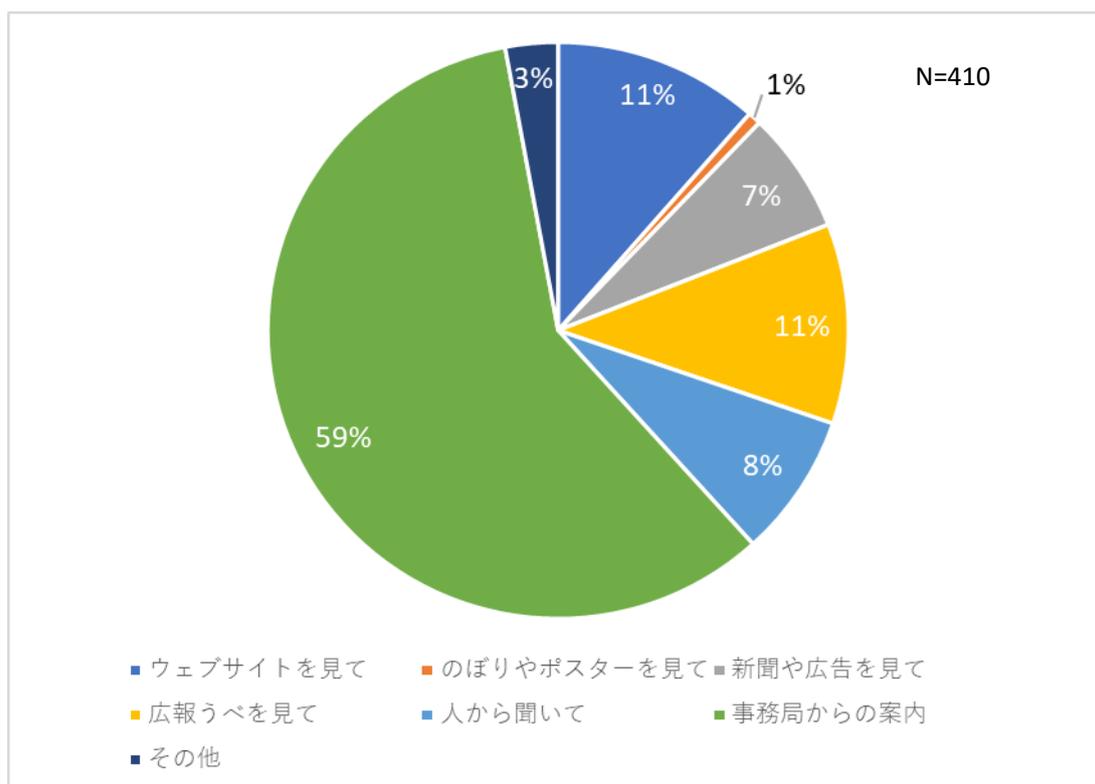
問1. 昨年度の宇部市プレミアム付商品券事業には参加されましたか。

本アンケート調査では、91%の事業者が昨年度（令和4年度）の宇部市プレミアム付商品券事業に参加しています。



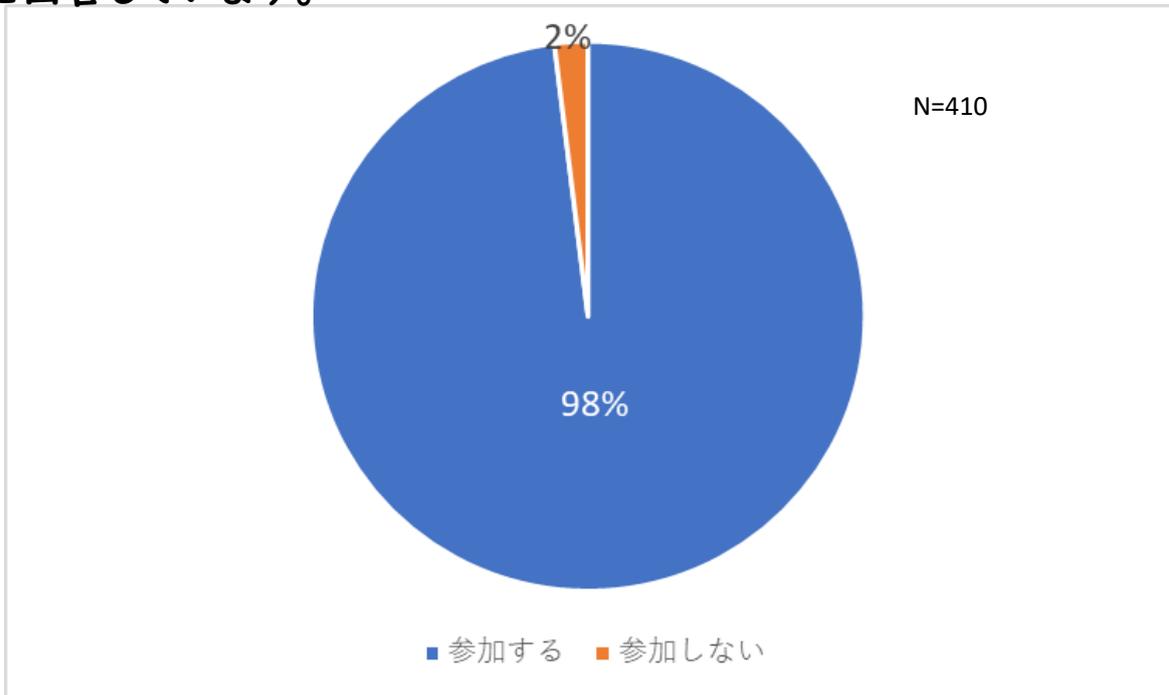
問2. 宇部市プレミアム付商品券の事業を知ったきっかけは何ですか。

本事業を知ったきっかけで最も多いのは、「事務局からの案内」の59%で、次に「ウェブサイトを見て」、「広報うべを見て」がそれぞれ11%となっています。



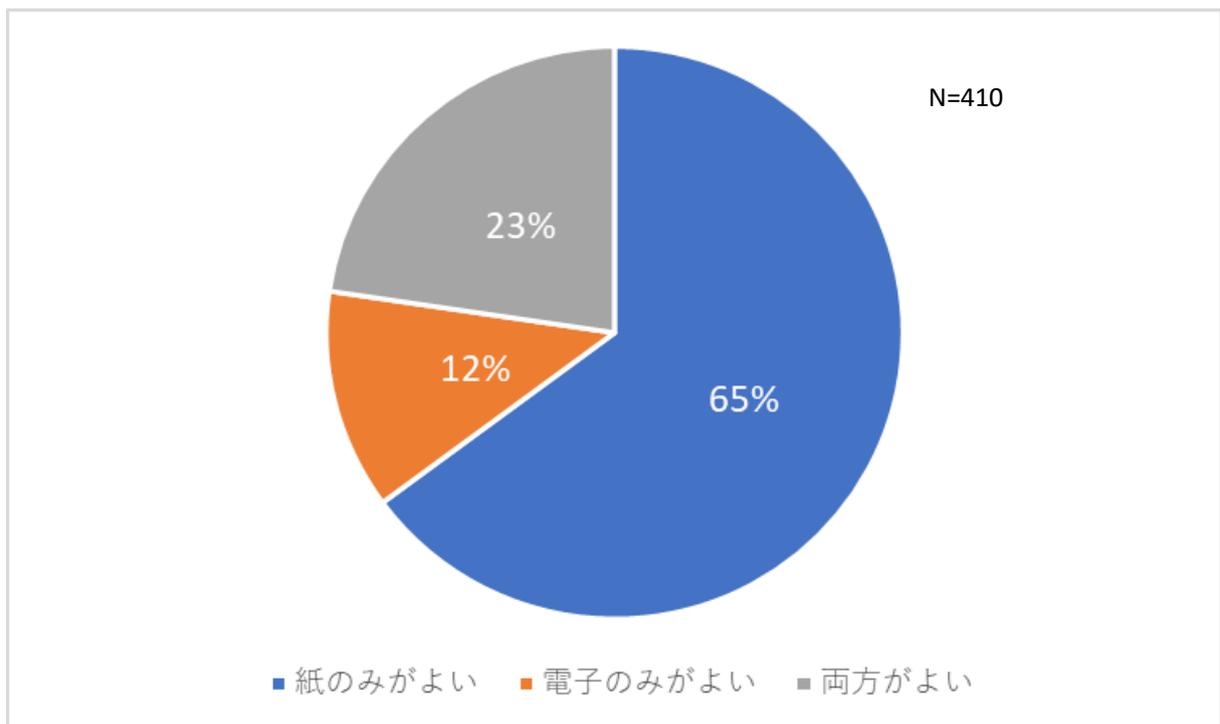
問3. 今後、同様の事業が仮に再度行われる場合、また参加されますか。

98%の事業者が今後、同様の事業が行われる場合、「参加する」と回答しています。



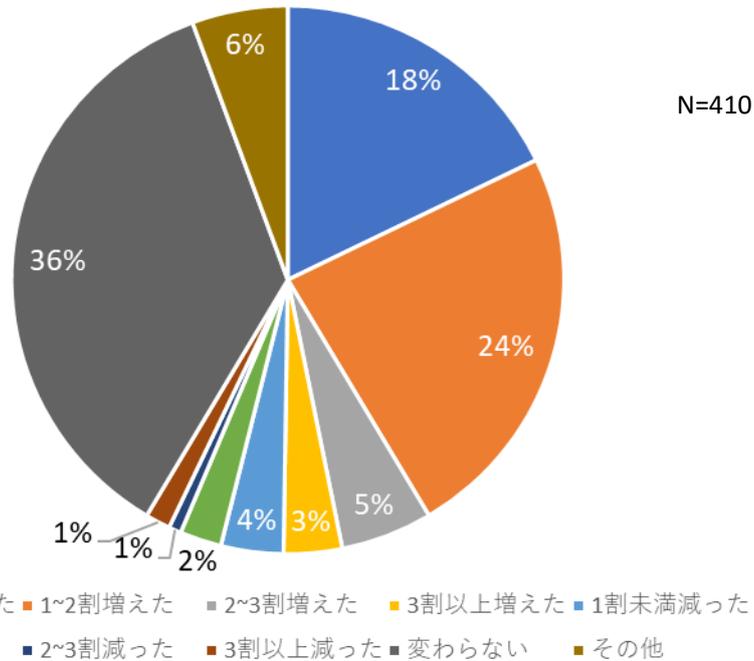
問4. 今後、同様の事業が仮に再度行われる場合、商品券はどんなタイプがよいですか。

65%の事業者が「紙のみがよい」と回答しており、「電子のみがよい」と回答した割合は12%しかありませんでした。



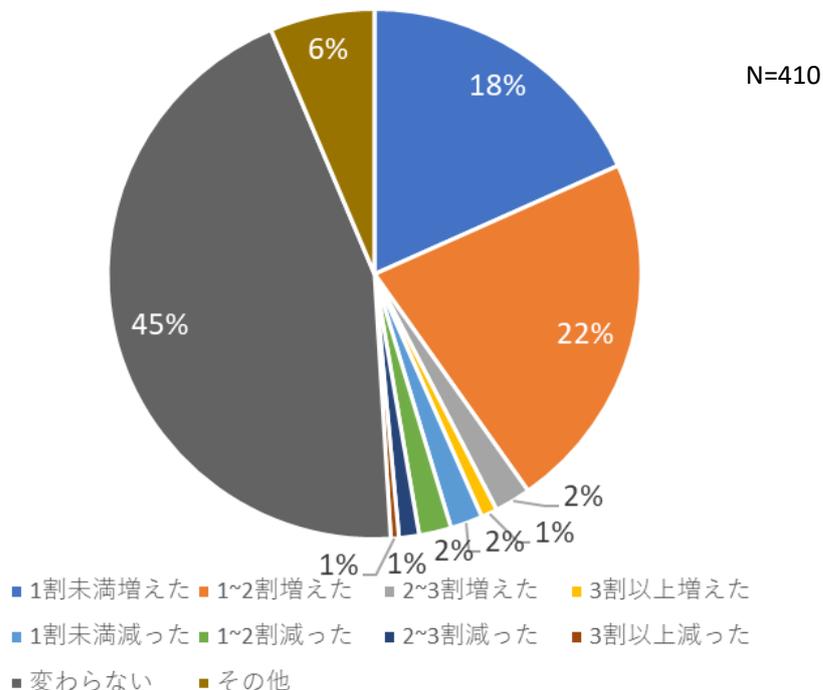
問5. 商品券を実施していない昨年8月と今年の8月を比べ、平均売上は増えましたか。

昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均売上が「変わらない」と回答した割合が36%と最も多く、次に「1~2割増えた」が24%、「1割未満増えた」が18%となっています。



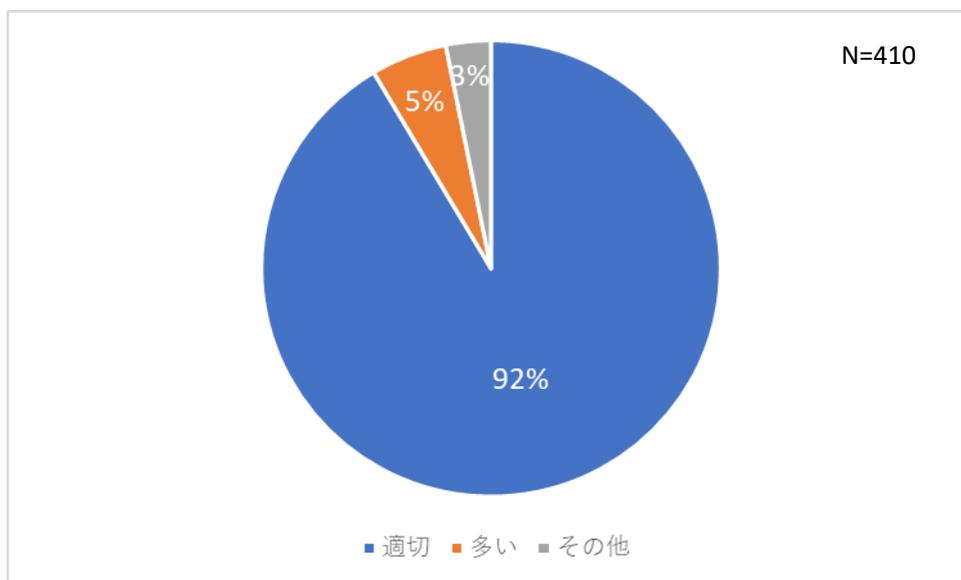
問6. 商品券を実施していない昨年8月と今年の8月を比べ、平均客単価は増えましたか。

昨年同時期と比べ、商品券利用期間の平均客単価が「変わらない」と回答した割合が45%と最も多く、次に「1~2割増えた」が22%、「1割未満増えた」が18%となっています。



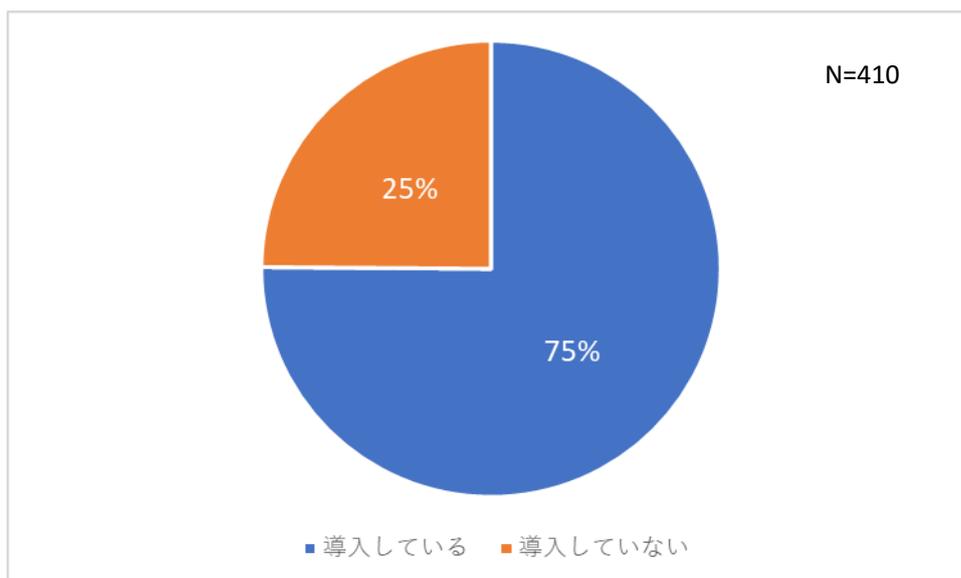
問7. 換金の頻度（月3回）は適切だったでしょうか。

換金の頻度（月3回）が「適切」と回答した割合がほとんどであった。
（92%）



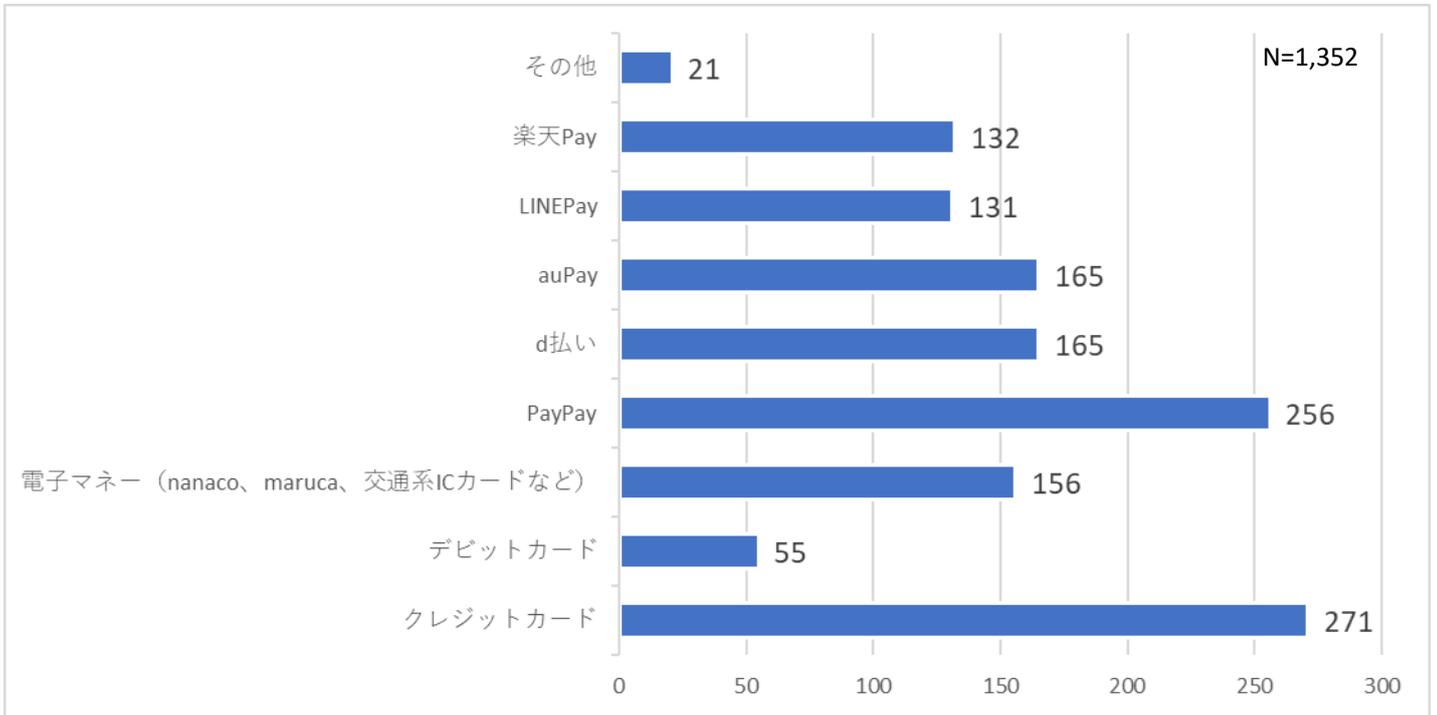
問8. 店舗において現金以外の決済手段を導入していますか。

参加店の多く（回答者の約75%）が店舗のキャッシュレス化に取り組んでいることがわかりました。



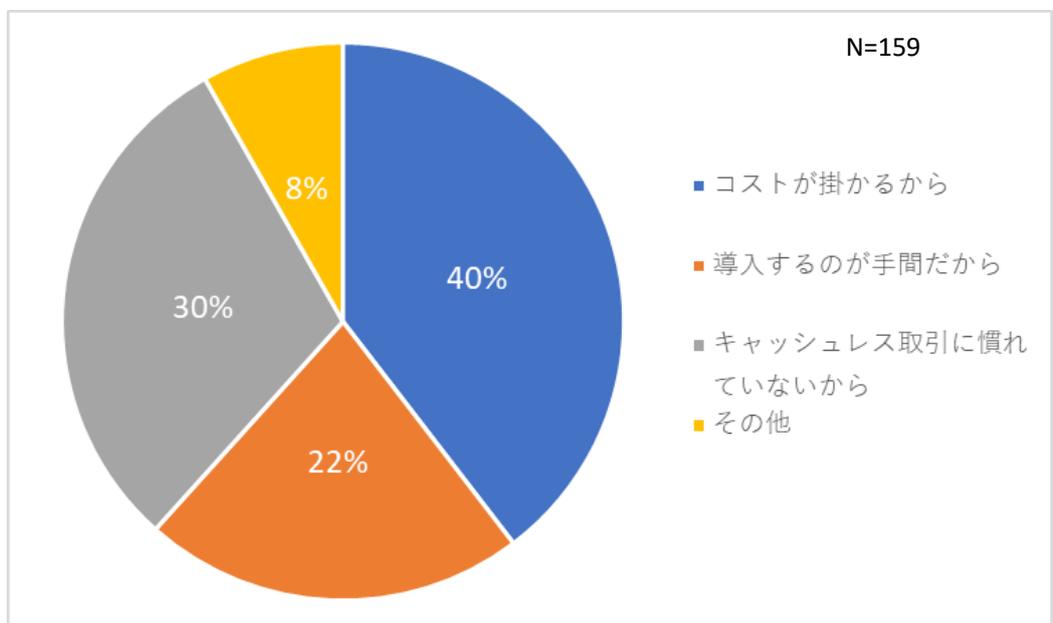
問9. 導入している決済手段の種類は何ですか。該当するもの全てに○を付けてください。

決済手段として「クレジットカード」が271件と最も多く、本設問に回答した421店の約65%がクレジットカード決済に対応していることがわかりました。次に回答が多かった項目は「PayPay」256件、「au Pay」と「d払い」がそれぞれ165件となっています。



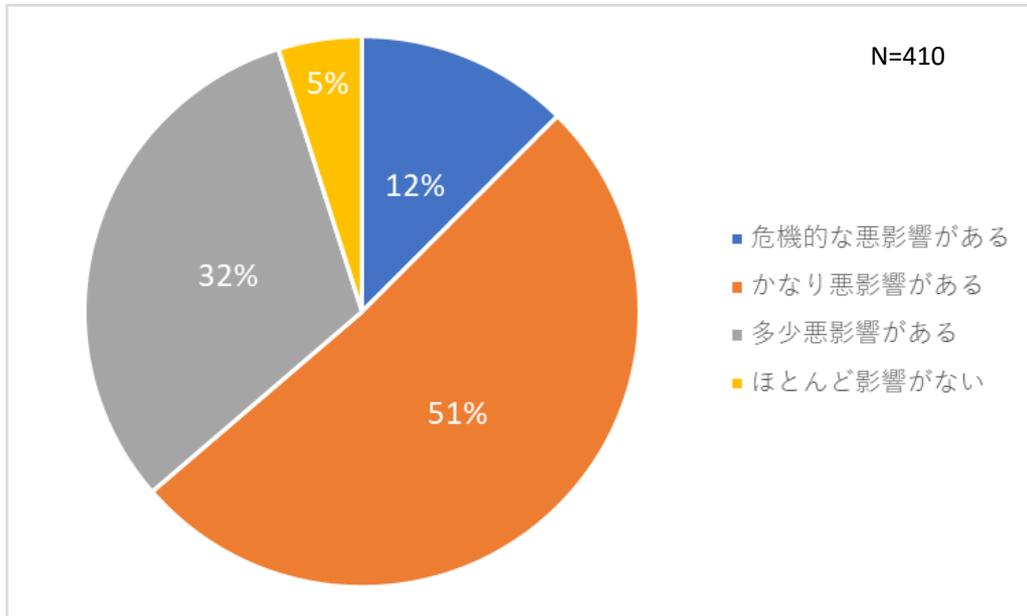
問10. 導入していない理由として該当するもの全てに○を付けてください。

「キャッシュレス決済」を導入していない理由として、最も多いのが「コストがかかるから」の40%、次に「キャッシュレス取引に慣れていないから」の30%となっています。



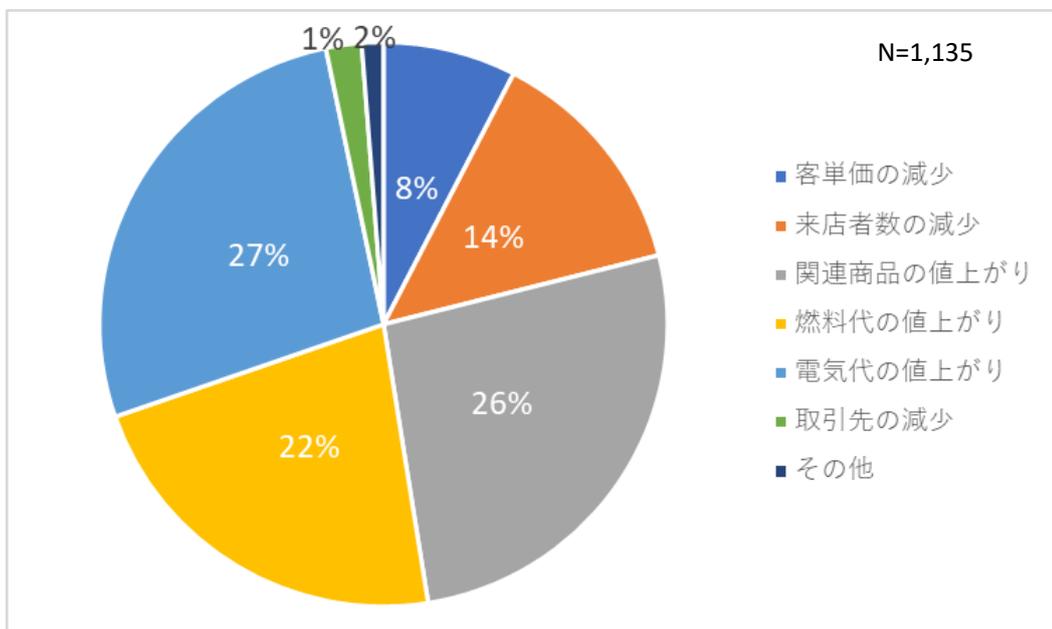
問11. 燃油・電気・ガス・原材料価格の上昇による経営への影響はどの程度でしょうか。

「かなり影響がある(51%)」と「危機的な影響がある(12%)」を合算すると回答者の63%が燃油・電気・ガス・原材料価格の上昇により経営上深刻な影響を受けていることがわかりました。



問12. 悪影響の内容として該当するもの全てに○を付けてください。

燃油・原材料・仕入価格の上昇による経営への影響の内容として、最も回答が多かったのは「電気代の値上がり(27%)」で、次に「関連商品の値上がり(26%)」、「燃料代の値上がり(22%)」の順に回答が多くなっています。



【参加店舗向けアンケートのまとめ】

再度、本事業が実施される場合、参加店の約98%が「参加する」と回答しており、参加店の本事業に対する評価は令和4年度と同様、非常に高かったと思います。

高評価の要因として次の3点が考えられます。

- ①商品券事業の受託先が令和4年度と同様、宇部商工会議所であったことから、事業者の方に対して本事業への参加協力を短期間でスムーズに行うことができ、商品券募集時に多くの参加店の登録を行えたこと。最終的には、参加店の登録数が大台の1,000店を超え、昨年を67店上回ることでできました。
- ②商品券のタイプが参加店のニーズが最も多かった「紙のみ」であったこと。事業実施期間中、参加店を対象にしたアンケート調査では回答者の65%が商品券のタイプは「紙のみでよい」と回答しています。
- ③商品券1セット(1,000円券×7枚)あたり、共通券(すべての参加登録店で使用可能)よりも専用券(本社が宇部市内にある参加登録店で使用可能)の枚数が多かったため、参加店の大多数を占める宇部市内に本社を置く中小店で特に満足度が高かったこと。

一方、キャッシュレス化については参加店の75%が何らかの取組を行っており、殊に参加店の65%がクレジットカード決済に対応していることがわかりました。今後、市内でキャッシュレス化の取り組みを行っていく上で、「キャッシュレス化に躊躇しているお店」に対してきめ細やかな対応を行っていくと共に決済手段が「クレジットカードのみ」のお店に対しては「PayPay」や「d払い」などのQRコード決済手段を導入を勧奨していくことが課題であることがわかりました。

最後に、市内に本社を置くお店(主に中小店)を応援する本事業の目的は概ね達成することができたと考えられます。

Ⅲ. 経済波及効果試算

【1】消費総額・消費喚起額の整理

換金データに基づく換金総額は、商品券での支払い総額に該当します。

商品券での支払い内訳は、市民向けアンケートの「①普段の買い物を商品券で支払った金額」と、「②商品券があったので購入を決めた金額」の構成比により、換金総額を按分することで求められます。

以上により推計した結果は、下図表1のとおりです。商品券の支払い総額は、「①普段の買い物を商品券で支払った金額」が5億7,322万円、「②商品券があったので購入を決めた金額」が5億3,983万円となりました。

図表1 「商品券での支払い」内訳推計結果

商品券の使用目的	商品券額構成比	換金総額(万円)	内訳推計結果(万円)
①普段の買い物で商品券を使った金額	51.5%	→51.5% × 111,305→	57,322
②商品券があったので購入を決めた金額	48.5%	→48.5% × 111,305→	53,983
合計	100.0%	111,305	

(注1) 商品券額の構成比は、市民向けアンケートの集計結果より算出。

(注2) 換金総額は換金データの集計値を基に算出。

消費総額は、「商品券での支払い」と「②商品券があったので購入を決めた金額」(追加料金)の合計金額となります。

市民向けアンケートにより、「②商品券があったので購入を決めた金額」については、「商品券額」と「追加現金」での支払い比率により求めることができます。先に求めた「②商品券があったので購入を決めた金額」の「商品券額(5億3,983万円)」に当該比率を乗じて「②商品券があったので購入を決めた金額」(追加料金)を推計した結果、約3億1,310万円となりました。(図表2参照)

図表2 「商品券での支払いと同時に支払った現金等」推計

商品券の使用目的		商品券額	追加現金
②商品券があったので購入を決めた金額	商品券と現金等での支払い比率	1.00	0.58
	内訳推計結果(万円)	53,983	31,310

(注1) 商品券と現金等での支払い比率は、市民向けアンケートの集計結果により算出。

(注2) 商品券額は、「商品券での支払い」の内訳推計結果によります。

以上より、消費総額は14億2,615万円となりました。また消費喚起総額は、「②商品券があったので購入を決めた金額」の総額（商品券金額+追加現金）と捉えられ、8億5,293万円（5億3,983万円+3億1,310万円）となりました。（図表3参照）

商品・サービスの品目別構成比より試算した品目別の消費喚起額は、下図表4のとおりとなりました。

図表3 消費総額・消費喚起額の推計結果

単位：万円

商品券の使用目的	商品券額	追加現金	計
① 普段の買い物で商品券を使った金額	57,322		57,322
② 商品券があったので購入を決めた金額	53,983	31,310	85,293 [消費喚起総額]
合計	111,305	31,310	142,615 [消費総額]

図表4 消費喚起額の内訳推計結果（購入商品・サービス別）推計結果

単位：万円

	商品券があったので購入を決めた金額		計
	商品券額	追加現金	
家電製品	1,930	1,791	3,720
食料品（生鮮、加工、飲料等）	16,257	17,052	33,309
車・自転車類	801	1,069	1,870
娯楽レジャー	783	222	1,005
時計メガネ	774	351	1,125
玩具娯楽	682	444	1,126
衣類アパレル	2,581	623	3,204
家具インテリア	623	632	1,255
宝飾・カバン・革製品	383	109	492
台所用品	488	470	959
外食	18,497	3,652	22,149
薬・化粧品	2,020	355	2,375
教養教育	651	91	742
自動車関連	1,085	803	1,888
住宅関連	510	1,917	2,428
理美容エステ	3,107	615	3,721
その他	2,812	1,114	3,926
計	53,983	31,310	85,293

（注1）消費喚起総額の内訳推計結果であり、消費者アンケートの集計結果より求められる品目・サービス別消費額の構成比に、「②商品券があったので購入を決めた金額」を乗じて算出。

（注2）千円以下の金額を含め計算しているため、万円単位の表記とした場合、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

経済波及効果試算においては、推計した消費喚起額を産業連関表の部門分類に対応させ、部門分類別の消費喚起額を試算する必要があります。

市民向けアンケートの品目分類と産業連関表の部門分類の対応は図表5のとおりです。

「家電製品」は電気機械と情報・通信機器に分け、「その他」については消費者アンケートに回答のあった内容を校了し、対応する産業連関表の部門に分けることとしました。

以上に基づき消費喚起額の内訳を推計した結果は、図表6のとおりとなりました。

図表5 消費者アンケートの商品・サービス品目分類と産業連関表部門分類の対応

市民向けアンケート品目分類		産業連関表対応部門
1	生鮮食料品	飲食料品
2	加工食品、飲料等	飲食料品
3	衣類、寝具	繊維製品
4	家具・建具等	パルプ・紙・木製品
5	家電製品の54.7%(家庭用耐久財)	電気機械
5	家電製品の45.3%(教養娯楽用耐久財)	情報・通信機器
6	宝飾品、かばん、革製品	その他の製造工業製品
7	時計、眼鏡	精密機械
8	化粧品、医薬品	化学製品
9	台所用品	その他の製造工業製品
10	自転車・オートバイ	輸送機械
11	自動車関連部品	輸送機械
12	玩具・娯楽用品	その他の製造工業製品
13	住宅(設備等)関連	その他の製造工業製品
14	娯楽・レジャー	対個人サービス
15	外食	対個人サービス
16	美容、エステ等	対個人サービス
17	教養、教育	対個人サービス
18	その他()	その他の製造工業製品

図表6 消費喚起額の内訳推計結果(部門分類別)

部門分類	消費喚起額(万円)
飲食料品	33,309
繊維製品	3,204
パルプ・紙・木製品	1,255
化学製品	2,375
電気機械	2,035
情報・通信機器	1,685
輸送機械	3,758
精密機械	1,125
その他の製造工業製品	8,929
対個人サービス	27,618
計	85,293

(注1)「家電製品」については、「平成26年家計調査」(総務省統計局)より求められます山口市の品目別消費支出の構成比に基づいて、「電気機械」と「情報・通信機器」に配分しました。

(注2)千円以下の金額を含め計算しているため、万円単位の表記とした場合、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

【2】市内需要増加額の算出

経済波及効果の試算においては、「平成27年山口県産業連関表」を活用して、先に推計した消費喚起額より、経済波及効果試算プロセスにおける市内需要増加額を算出しました。

消費喚起額は、消費者が購入した際の価格であり、出荷時の価格に商業マージンや運輸マージンが加算された価格となっています。

一方、産業連関表は出荷額に相当する生産者価格で評価されるため、先に求めた部門分類別の消費喚起額から「商業マージン」及び「運輸マージン」を除外して生産者価格に組み替える必要があります。

よって市内需要増加額は、この組み換えた生産者価格ベースの消費喚起額に自給率を乗じて算出したところ、算出した市内需要増加額は3億9,497万円となりました。(図表7参照)

図表7 市内需要増加額の試算結果

部門分類	消費喚起額(万円)	マージン額		需要増加額生産者価格(万円)	自給率	市内需要増加額(万円)
		商業(万円)	運輸(万円)			
飲食料品	33,309	10,745	1,072	21,493	0.210	4,515
繊維製品	3,204	1,408	79	1,718	0.100	173
パルプ・紙・木製品	1,255	293	73	889	0.164	145
化学製品	2,375	476	64	1,835	0.289	531
電気機械	2,035	353	19	1,663	0.029	49
情報・通信機器	1,685	300	13	1,372	0.000	0
輸送機械	3,758	326	59	3,373	0.214	720
精密機械	0	0	0	0	0.110	0
その他の製造工業製品	10,054	3,180	359	6,515	0.123	803
商業	0		0	17,081	0.592	10,114
運輸	0	0		1,737	0.617	1,071
対個人サービス	27,618	0	0	27,617	0.774	21,376
計	85,293	17,081	1,737	85,293		39,497

(注1) マージン額は、「平成27年産業連関表(総務省)」の「商業マージン表」及び「国内貨物運賃表」より算出したマージン率を用いて算出しました。

(注2) 自給率は、「平成27年山口県産業連関表」を準用しました。

【3】経済波及効果の試算結果

(1) 試算条件

本試算では、「平成27年山口県産業連関表」を活用し、先に求めた市内需要増加額を基に経済波及効果を試算しました。

(2) 試算結果

商品券の発行総額11億2,000万円に対して、消費総額は約14億2,615万円となり、うち消費喚起総額は約8億5,293万円となりました。

この消費喚起総額に対して、直接効果(=市内需要増加額)は約3億9,497万円であり、経済波及効果(総合効果)は約5億7,034万円、市内需要増加額に対する波及効果倍率は1.44倍となりました。

なお、発行冊数より算出されるプレミアム分の総額(3億2,000万円)に対する経済波及効果(総合効果)の倍率は約1.78倍となりました。

経済波及効果試算結果

(1) 入力内容

単位：万円、率

需要増加額	85,293
市内需要増加額A	39,497
消費転換率	0.604

(2) 分析結果

単位：万円、倍

	生産誘発額	粗付加価値誘発額	雇用者所得誘発額
直接効果	39,497	22,350	11,695
第1次間接波及効果	10,639	5,858	2,639
第2次間接波及効果	6,898	4,495	1,763
総合効果 B	57,034	32,703	16,097
波及効果倍率 B/A	1.44		
雇用誘発数(人)	6,248		

生産誘発額

商品券の発行により増加した3億9,497万円(直接効果)により、どれだけの生産増加をもたらすのかを算出した金額が1億639万円(第1次間接波及効果)、更にその生産増加が雇用者所得の増加をもたらし、その所得の増加が消費を増加させ、生産をどれだけ増加させるかを算出した金額が6,898万円(第2次間接波及効果)となり、その生産を誘発した総合効果額は5億7,034万円となりました。

粗付加価値誘発

生産誘発額のうち、雇用者所得や営業利益、減価償却費の合計(粗付加価値誘発額)は、直接効果によるものが2億2,350万円、第1次間接波及効果によるものが5,858万円、第2次間接波及効果によるものが4,495万円となり、その総合効果額は3億2,703万円となりました。

雇用者所得誘発額

粗付加価値誘発額のうち、雇用者所得を誘発した額は、直接効果によるものが1億1,695万円、第1次間接波及効果によるものが2,639万円、第2次間接波及効果によるものが1,763万円となり、その総合効果額は1億6,097万円となりました。

【4】総評

令和5年度宇部市プレミアム付商品券の経済効果を令和4年度宇部市プレミアム付商品券と比較すると図表9のとおりとなりました。

この表によると、令和5年度は令和4年度よりも市内需要増加額が1億2,392万円、経済波及効果が1億7,933万円それぞれ増加しました。

また、経済波及効率(プレミアム額に対する経済波及効果)も1.78倍で、令和4年度を大きく上回ることができ、プレミアム額投資分の経済効率性が令和4年度よりも極めて高かったと考えられます。

商品券発行総額が令和4年度と同額で、換金総額が令和4年度よりも289万円少なかったにも拘わらず、前述のような成果を出すことができた最大の要因は、消費喚起額(普段以外の買い物に使った商品券や追加現金の総額)が令和4年度よりも2億6,963万円増加したからだと考えられます。

図表9 令和5年度宇部市プレミアム付商品券 経済効果比較表(令和4年度対比)

単位:万円

	令和5年度 A	令和4年度 B	比較増減 A-B
発行総額	112,000	112,000	0
プレミアム額(A)	32,000	32,000	0
換金総額	111,305	111,594	△ 289
消費喚起額	85,293	58,330	26,963
市内需要増加額	39,497	27,105	12,392
経済波及効果(B)	57,034	39,101	17,933
経済波及効率(B)／(A)	1.78	1.22	0.56

別添

図表10 経済波及効果(総合効果)の部門別内訳

単位:万円

部門名	生産誘発額			
	直接	第1次	第2次	合計
01 農林漁業	0	731	78	809
06 鉱業	0	4	1	5
11 飲食料品	4,515	818	209	5,542
15 繊維製品	173	19	15	207
16 パルプ・紙・木製品	145	92	9	246
20 化学製品	531	178	63	772
21 石油・石炭製品	0	164	94	258
22 プラスチック・ゴム製品	0	86	14	100
25 窯業・土石製品	0	37	5	42
26 鉄鋼	0	8	0	8
27 非鉄金属	0	2	0	2
28 金属製品	0	34	5	39
29 はん用機械	0	2	0	2
30 生産用機械	0	3	1	4
31 業務用機械	0	0	0	0
32 電子部品	0	1	0	1
33 電気機械	49	1	3	53
34 情報通信機器	0	0	0	0
35 輸送機械	720	105	44	869
39 その他の製造工業製品	803	45	18	866
41 建設	0	132	34	166
46 電力・ガス・熱供給	0	1,145	293	1,438
47 水道	0	260	64	324
48 廃棄物処理	0	275	31	306
51 商業	10,108	1,447	950	12,505
53 金融・保険	0	422	514	936
55 不動産	0	539	1,640	2,179
57 運輸・郵便	1,071	1,344	376	2,791
59 情報通信	0	523	290	813
61 公務	0	36	75	111
63 教育・研究	0	15	142	157
64 医療・福祉	0	2	568	570
65 他に分類されない会員制団体	0	86	147	233
66 対事業所サービス	0	1,688	361	2,049
67 対個人サービス	21,382	248	835	22,465
68 事務用品	0	75	10	85
69 分類不明	0	72	9	81
合計	39,497	10,639	6,898	57,034

(注1)「平成27年山口県経済波及効果分析ツール(37部門)」を用いて算出しました。

IV. 資料

令和5年度宇部市プレミアム付商品券の利用に関するアンケート

※すべての設問について、代表者の方がご家族分をまとめてご回答ください。
※別紙「回答用紙」に、各設問にあてはまる「カタカナ」をご記載いただき、返送用封筒にてご返送ください。

問1 回答者性別

【ア】男性 【イ】女性 【ウ】回答しない

問2 回答者年齢

【ア】19歳以下 【イ】20代 【ウ】30代 【エ】40代
【オ】50代 【カ】60代 【キ】70代以上

問3 宇部市プレミアム付商品券の事業を知ったきっかけは何ですか。(1つだけ選択)

【ア】広報うべ 【イ】宇部市のウェブサイト 【ウ】宇部商工会議所のウェブサイト
【エ】プレミアム付商品券専用公式サイト 【オ】公共施設等に設置されたポスターや案内
【カ】ポスティング(折込み)チラシ 【キ】新聞 【ク】口コミ

問4 昨年(令和4年)度に販売した宇部市プレミアム付商品券は購入されましたか。

【ア】はい 【イ】いいえ

問5 1セットのうち、共通券(すべての参加登録店で使用可能)と専用券(本社が宇部市内にある参加登録店で使用可能)の割合について教えてください。(1つだけ選択)

【ア】共通券の枚数を増やしてほしかった
【イ】すべて共通券が良かった
【ウ】専用券の枚数を増やしてほしかった
【エ】すべて専用券が良かった
【オ】共通券3枚と専用券4枚ずつでちょうど良かった

問6 商品券1枚1,000円の利用金額設定について教えてください。(1つだけ選択)

【ア】1枚を1,000円よりも下げてほしい
【イ】1枚を1,000円よりも上げてほしい
【ウ】1枚が1,000円でちょうどよかった

問7 商品券1セットあたりの金額について教えてください。(1つだけ選択)

【ア】5,000円よりも下げてほしい
【イ】5,000円よりも上げてほしい
【ウ】5,000円でちょうどよかった

問8 宇部市プレミアム付商品券の使用が電子支払い(専用のスマホアプリ)も可能となった場合、利用したいと思いますか。

【ア】利用したくない ⇒問8-2へ
【イ】利用したい ⇒問9へ

問8-2 8で「利用したくない」と回答された方にお聞きします。主な理由を最大3つまで選択してください。

- 【ア】スマートフォンを持っていない 【イ】キャッシュレス決済の使い方がわからない
 【ウ】キャッシュレス決済のセキュリティが心配 【エ】クレジットカードを持っていない
 【オ】キャッシュレス決済を使ったことがない 【カ】新しいアプリを追加したくない

問9 宇部市プレミアム付商品券をどのように利用されましたか。

問9 目的別に商品券で支払ったおおよその金額をご記入ください。

※金額は商品券で支払った額のみご記載ください。(現金やその他の方法にて、追加で支払った金額は含みません)

※「普段以外の買い物」とは、商品券がきっかけで、いつもより多少高価な商品やサービスを購入した金額。

問10 問9のイ「普段以外の買い物に使った商品券の額」についてお伺いします。

下記項目から商品券を使って購入、または利用されたサービスを最大5つまで選択いただき、**A：商品券支払い**と**B：追加での支払い**に分けて金額をご記載ください。

例)9,800円のドライバーを商品券支払い(9,000円)と商品券以外の支払い(800円)で購入。

番号	購入した商品・サービス	番号	購入した商品・サービス
1	生鮮食料品	10	自転車・オートバイ
2	加工食品、飲料等	11	自動車関連部品
3	衣類、寝具	12	玩具・娯楽用品
4	家具・建具等	13	住宅(設備等)関連
5	家電製品	14	娯楽・レジャー
6	宝飾品、かばん、革製品	15	外食
7	時計、眼鏡	16	美容、エステ等
8	化粧品、医薬品	17	教養、教育
9	台所用品	18	その他

～～～抽選で商品券をプレゼント！～～～

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で100名様に、フジグラン宇部か、ゆめタウン宇部で使える商品券をプレゼント！(一部利用できない店舗もございます)

どちらの商品券をご希望か回答欄に「番号」をご記載ください。

- 「1」 フジグラン宇部で使える商品券 5,000円分
 「2」 ゆめタウン宇部で使える商品券 5,000円分

「令和5年度宇部市プレミアム付商品券」参加店舗向け利用アンケート

◇FAX送信先：宇部市プレミアム付商品券事務局（FAX0836-33-3900）

◇提出期限：令和6年1月15日（月）※当日消印有効

店舗名：

参加店舗登録番号： _____（分かる方のみ）

※以下、該当する記号に○を付けてください。

問1. 昨年度（令和4年度）の商品券事業には参加されましたか。

ア 参加した イ 参加していない

問2. 今年度（令和5年度）の商品券事業を知ったきっかけは何ですか。

ア ウェブサイトを見て イ のぼりやポスターを見て ウ 新聞や広告を見て
エ 広報うべを見て オ 人から聞いて カ 事務局からの案内
カ その他（ ）

問3. 今後、同様の事業が仮に再度行われる場合、また参加されますか。

ア 参加する イ 参加しない（理由： ）

問4. 今後、同様の事業が仮に再度行われる場合、商品券はどんなタイプがよいですか。

ア 紙のみがよい イ 電子のみがよい ウ 両方がよい

問5. 商品券事業を実施していない昨年8月と今年の8月を比べ、平均売上は増えましたか。

ア 1割未満増えた イ 1～2割増えた ウ 2～3割増えた エ 3割以上増えた
オ 1割未満減った カ 1～2割減った キ 2～3割減った ク 3割以上減った
ケ 変わらない コ その他（分からない、昨年8月以降のオープンなど）

問6. 商品券事業を実施していない昨年8月と今年の8月を比べ、平均客単価は増えましたか。

ア 1割未満増えた イ 1～2割増えた ウ 2～3割増えた エ 3割以上増えた
オ 1割未満減った カ 1～2割減った キ 2～3割減った ク 3割以上減った
ケ 変わらない コ その他（分からない、昨年8月以降のオープンなど）

問7. 換金の頻度（月3回）は適切だったでしょうか。

ア 適切 イ 少ない（月 回必要） ウ 多い

<裏面に続きます>

